



【秋田県版】

No. 392

2024年2月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

発行人：田中幹夫

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4

秋田県本部

〒014-1413
秋田県大仙市角間川町

宇東中上町27
最上健造 方

TEL&FAX
0187-65-2115

● 今月は多喜二忌の月 ●

国賠同盟として「再び戦争と暗黒政治を許さない」
運動を前進させましょう



同盟運動の目的

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 1、国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
 - 2、国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
 - 3、国は、治安維持法による犠牲者の実態を調査し、その内容を公表すること

会員のみなさん

私たちは、この執念を断ち切る好機をむかえています。

しかしそれは自動的に出来ません。自民党政権の執念を上回る奮闘と努力が求められています。

そのためには、同盟の次の課題を前進させることが決定的に重要です。

会員のみなさん

国賠署名に取り組みましょう

新しい仲間を迎えましょう

まだの方は「会費」を納めましょう

この間、自民党政権は国民の平和の願いを踏みにじり、「憲法改悪」「戦争する国づくり」のため大きな力を注いできました。国民の支持を失っている岸田政権も、「憲法改悪」「戦争する国づくり」に執念を燃やしています。

「不屈」再録シリーズ③④

県版「不屈」（2011年8月～12年3月）より

アア多喜二オオ多喜二

最上 健造

1、多喜二忌は俳句の季語

「多喜二忌」は俳句で春の季語になつている。講談社や新潮社発行の歳時記にも登録されていると、いう（2003・2・16「しんぶん赤旗」「俳壇」石川貞夫）

一九三三年二月二〇日、多喜二は特高の拷問によつて惨殺された。多くの人達が、この無念さと暴虐にたいする憤りを忘れぬ記憶として胸に刻みこんだ。

二月二〇日がくると多喜二を偲び、また新たな決意をこめて俳句を詠んだ。

戦前は仙北郡の「蠅座事件」のように俳句運動も弾圧された。

だがかつて「国賊」として殺された多喜二が、季語として歳時記に登録されている。ここにも社会進歩の表れの一つを感じる。

また俳句を愛する人たちの理性と良心に静かなる感動を覚える。

多喜二忌を詠んだ句はたくさんあるが、ここでは私の近所で「レツドパージ」された人（故人）の一句を紹介したい。

軒つらゝ 内へ曲がつて

多喜二の忌

2、多喜二を売った秋田県人

多喜二が生まれて六年後、由利郡川内村の貧しい農家に四番目の男の子が生まれた。その名は三船留吉。留吉四歳の時、生活に困った両親は手取り早い収入を求めて生まれ故郷の仙北郡協和の荒川鉾山に転居した。

荒川鉾山には留吉より三歳年上の松田解子がいた。同じ小学校に通つたのである。

秋田の貧困を共通の土壌として苦難の幼児期を過ごし、ともに社会変革をめざした多喜二、留吉、解子の三人だったが……。

やがて多喜二は特高のスパイと なつた留吉の手引きで検挙され、拷問で殺された。多喜二に別れを告げに来た松田解子は特高に捕まってしまう。

「秋田さきがけ」のコラム「北斗星」は「虐殺でつながる邂逅に時代の残虐さを思う」（二〇〇七・三・八）と書いている。

いま多喜二と解子は、国民的な支持の輪の広がりなかに居る。留吉は企業人として成功したらしいが、酒におぼれたという。

3、切手7百万枚の多喜二

二〇〇〇年二月～五月にかけて「二〇世紀デザイン切手シリーズ第6集」で、多喜二の顔写真と「蟹工船」の文字の入った切手シートが発売された。七百万枚だ。

郵政省は「我が国の20世紀を象徴し21世紀へ向けて、夢と希望のある題材を、芸術、スポーツ、科学・技術、世相等の各種ジャンルにおいて楽しいデザインのシリーズ切手を発行」したのであった。

総合デザインを担当した郵政省（当時）の技芸官・森田基治氏はあるブログのなかで言っている。

「記念切手のバリエーションは軍事的なことが起源。強い軍事力をもって他国を侵略した時に先ず代えるのが貨幣と切手で、この二つは国の力を示す大きなフアクタ

「だった」、「戦時中は『国威高揚』」だったが「もうそんな時代じゃない」と。

別のブログで歌人、橋本喜典の作品が紹介されている。

小林多喜二が切手となりぬ

湿したる指に

多喜二の背中を撫づる

4、特高辞典の多喜二

多喜二は拷問で殺された。その遺体は、正視に耐えない惨さだった。特高は死因を心臓麻痺と強弁した。当時の毛利特高課長の談話は次回に掲載したい。

多喜二殺害の翌年。「新特高辞典」が補強改訂版となって発行された。

【小林多喜二】の項には次のように書いてある。

「昭和八年二月遂に逮捕されたが、まもなく心臓麻痺で死亡した。日本プロレタリア文化連盟では之を以て

官憲の虐殺と宣伝した」

この著者は内務官僚で、のち官選の岡山県知事、熊本県知事になった。戦後は、一時公職追放になったが二十三年間弁護士として活動した。どんな人たちのために、どんな弁護をしたのだろうか。

この人が一九七四年に発行した回顧録『昭和史の片鱗』には、東京裁判を批判して「史観や批判は別として、事実そのものだけは正しく書き伝えられなければならない」と書いているのだが……。

5、「存分にやれ」

多喜二が殺された時の警視庁の

毛利特高課長の談話「あまり突然なことでも、もしやと心配したが、調べてみると、決して拷問したこ

とはない。あまり丈夫でない身体で逃げ回っているうち、心臓に急変をきたしたもので、警察の処置に落ち度はなかった」(1974・9「月刊歴史と旅」特集・近代史を彩る名場面―特高のあくなき拷

問の下に・峯雪栄)

拷問を直接指揮したのが特高係長の中川成夫。トップは初代警視庁特高部長の安倍源基である。

その安倍の回想録『昭和動乱の真相』(1977)―「直接の部下には毛利君という経験豊富な敏腕の特高課長がおり、毛利の下に

山県、中川、庵谷警部等多士済々の陣容がそろっていた。ただ私は仮に部下が失敗しても責任は一切自分が負うという信念の下に、大

分の働きやすいようにしただけである」。拷問は、安倍の認可のもと、何の躊躇もなく「存分」に行

われたのである。だが「拷問は部下が勝手にやったもの」とも読み取れる。

6、拷問は理不尽でないのか

続けて安倍の回想録『昭和動乱の真相』より。

安倍は、「共産党の検挙技術などについては全く無経験であり自

信もなかった」ので毛利課長にまかせ、「罪を憎むも人を憎まず」の考えで共産党員に接してきたという。だが彼は「赤狩り安倍」といわれ、最も残忍性を発揮した部長だった。

「特高警察は、治安維持法、その他の法令を厳正に守って忠実に職務を履行しただけのこと」、

「多数の警察官の中には、多少の行きすぎもあつたかも知れないが、特高警察に従事したというだけで、GHQが、一巡査にいたるまで罷免追放したことは、あまりにも理

不尽な占領政策であつた」と憤慨している。

治安維持法「違反者」を裁判にかけることもなく拷問で虐殺したことは、「多少の行き過ぎ」にすぎず「理不尽」なことではないというのか。

安倍は、1956年自民党公認で参議院山口地方区から立候補したが落選している。

(4ページにつづく)

7、貧困打開に「蟹工船」

小泉純一郎が総理大臣をつとめた5年間(2001~06)に、貧困と格差が急速に拡大。殆どの国民が絶望の淵に追いやられた。

だが貧困打開の新しい模索が始まった。多くの若者が『蟹工船』にたどり着いたのだ。

蟹工船ブームと言われた。一説には百三〇万部が売れたという。

第13回読売出版大賞は、新潮社の『蟹工船』だった。2008年の一年間で読売新聞に掲載された5460点の出版広告の中から選ばれた。選考委員長は井上ひさしさんである(09・1・28読売)。

上野の書店勤務の三十歳の女性は『蟹工船』を読み直し共感を深め、月一冊〜二冊しか売れなかつた『蟹工船』を二五〇冊仕入れ「ワーキングプア?それってもしや蟹工船じゃないか」と札をつけ平積みした。一年間で三千冊が売れた(09・3・5朝日)。

蟹工船は流行語にも選ばれた。蟹工船は、CD『声に出して歌いたい日本文学』にも収録された(09・8・8朝日)。

8、秋田の偉人 多喜二

2008年5月3日憲法記念日。

秋田さきがけのタイトルの下に「秋田の偉人」として多喜二が紹介された。スポンサーは秋田銀行。

同年、秋田県知事公室情報公開センター発行の『美の国あきた県政ガイドブック・秋田の魅力、伝えます』の「秋田の先覚」に8人が紹介されている。その一人が小林多喜二だ。

多喜二は貧しさ故に、四歳にして秋田を出なければならなかった。作家デビューすると彼は「国賊」の汚名をきせられ殺された。

秋田に直接利益をもたらしたり、足跡を残したわけでもない。

だがいま、秋田の偉人であり、郷土の誇りである。生まれ故郷の大館市では、より強い誇りと顕彰

が受け継がれている。秋田県人の理性と感性が輝いている。

たしかに現在の政治情勢は厳しいが、もつと厳しかった暗黒政治の時代を闘った多喜二が、いまでも我々を励まし、ともに闘っている。未来への希望の光を灯している。

《終》

訂正とお詫び

「不屈」1月号8ページ上段(年賀広告)

農民連委員長

誤 小林 英彦
正 秀彦

の誤りでした。訂正してお詫びします。

参加して、聞いて、喋りあおう

国陪同盟 お気軽学習会

と き 3月30日(土)午後1時~3時30分

と ころ 秋田市役所 センタース 洋4

話題提供・遠藤嘉恵さん

「戦争と女性の人権・権利——慰安婦問題など」



地震列島日本に原発はいらない！ 原発と戦争を一体として考える

県本部副会長 遠藤 嘉恵

さよなら原発行動

530回目

私も参加している「さよなら原発県

民アクション」は、13年前の東日本大震災と福島原発事故の後に、全国各地の原発アクションに連帯し、毎週金曜

日、午後

5時30分

から「原

発はいら

ない！原

発ゼロの

日本を！

とアクション

ンを続け

ています。

今年1月

末で530回目のアクションとなりま

す。
福島原発事故は、13年経過した今も、被災者にとっても事故処理についても深刻な影響を及ぼし続けています。

能登半島地震でも

原発トラブル多発

元日に発生した能登半島地震で、そ

の震源地に近い石川県志賀町にある北陸電力の志賀原発はどうなっているのかと不安を感じていましたが、地震発生後に、政府と北陸原発は「異常ない」としていました。しかし間もなく外部

電源の一部が使えない、プールの水も

れや、大量の油もれがあったとし、数

日後にはモニタリングポスト14カ所で

測定不能となるなど、原発の深刻なトラブルが発生していた、としました。原発政策の隠蔽体質は許しがたいものがあります。

万が一、志賀原発の過酷事故が起きていけば、家屋の倒壊、道路の寸断などで避難の困難は誰の目にも明らかではないでしょうか。志賀原発は直ちに廃炉にせよ、地震大国日本に原発はいらない！と心底思いました。「さよなら原発県民アクション」でも、引き続き訴え続けようと思います。

樋口英唯氏の著書に

原発問題の核心が

さて最近、発刊された元福井地裁の裁判長・樋口英唯氏の『南海トラフ巨大地震でも原発は大丈夫と言う人々』の本は、原発問題を理解する上で大変参考になります。

この本の中心は、南海トラフの巨大地震が発生の確率の高さからも、被害

(9ページ)



の甚大さからも、国民が最も恐れているからこそ、伊方原発の過酷事故を回避するために住民が起こした裁判にたいし、広島高裁は「公平性も、論理性も、リアルティも、感性も、科学性も、責任感もなく」と住民の願いを全く否定した判決への怒りの告発のように思います。そして裁判所は「どうせ国民は判決の内容は理解できないだろうと、思っているのです」。それに対して、国民を見くびるな！と声をあげてほしいと訴えています。

このような樋口氏の訴えからしても、私たちが毎週とりくんでいる原発アクションの中で、その時々々の原発問題にかかわる情報を「市民のみなさんへの訴え」として発信し続けてきた事の大切さを再確認しました。

また樋口氏の著書の中に、13年前の福島原発事故に関して、大変に衝撃的事実が詳しく解明されています。それは当時、現場の最高責任者の吉田昌郎所長、日本の原子力行政のトップの近藤藤雄氏、行政のトップの菅直人総理

の三人が揃って「東日本壊滅」を覚悟していたことを、事故の推移の克明な分析で明らかにしています。そして福島原発事故では信じられないような数々の奇跡があり、そのうちの一つでもなければ「東日本壊滅」が起こったと指摘していません。もちろん秋田県も例外ではないと図解で示しており、奇跡の内容も詳しく解説しています。

原発そのままの

戦争は極めて無謀

そして著書の最後の方で、原発問題はエネルギー問題でも、環境問題でもあるが、根本的には国防問題であることを強調しています。

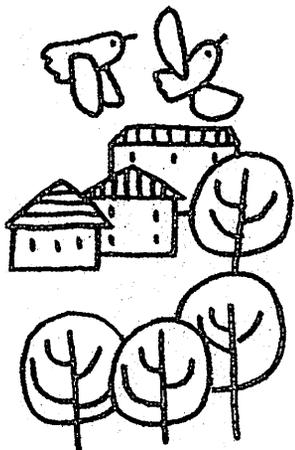
原発問題を脇に置いての防衛会議は空理空論であり、わが国の海岸沿いに五十数基もの原発を並べている状況は、開戦と同時に敗戦が確定することを意味します。戦争は絶対にしてはならないと、原発がテロリストに狙われる恐怖、狭い国土に多くの原発をかかえた

ままの戦争の無謀さなど、様々な角度から強調し訴えています。

希望もてる日本を

岸田内閣は、財界、大手電力会社の意のままに原発回帰にカジを切り、政府の責任として、原発推進を強めていきます。加えてアメリカいなり大軍拡を強行しています。

いよいよ自民党政府を終わらせる時です。「原発反対！戦争反対！」の願いを広げ、希望もてる日本にしたいと思ひながら記しました。



◆山崎裕侍 (ドキュメンタリー映画『ヤジと民主主義』監督)

「人権侵害に対する沈黙は加担を意味する。権力に付度せず報道を続けていくことが崩れかかっている自由や民主主義をかるうじて止める力になる」

(12・23 「しんぶん赤旗」 『潮流』より)

◆竹田タニエル (ライター・研究者、1997年生まれ)

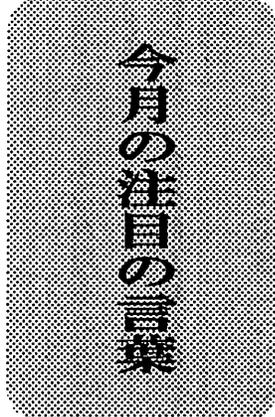
「絶望の時代を生き延びるため、自分を愛し、横とつながりながら変化の声をあげていく。この価値観を持てば世代関係なく、連帯できると思います」

(1・1 「しんぶん赤旗」 『Z世代の今』より)

◆岡田茉莉子 (俳優)

「戦時中は、通学途中に空襲警報が鳴って防空壕に潜っ

たり、夜は灯火管制が強いられる中で宿題したり……。何をしても戦争、戦争。戦争が終わって、負けて悔しい気持ちもあつたんでしようけど、戦争から解放された喜びや安心感がこみあげて、子どもでもほっとしたっていうのが本音でしょう」



今月の注目の言葉

(1・1 「しんぶん赤旗」 『新春対談』より)

◆小笠原勝 (ピキニで核実験被爆のマグロ船「第5海福丸」乗組員)

「私たちの被ばくは無視され続けてきました。無責任すぎる。戦争も核兵器もいかに若い世代にはこの真実を知っ

てほしい」

(1・9 「しんぶん赤旗」 『潮流』より)

◆グテレス (国連事務総長)

「ジェンダー平等は女性に対する特別扱いではありません。すべての人により良い未来を確保する上で基本的なものだからです」

(1・9 「しんぶん赤旗」 『主張』より)

◆メリツサ・パーク (核兵器廃絶国際キャンペーン事務局長)

「日本は今こそ『核の傘』という誤った考えを捨て、核兵器禁止条約に加わるべきだ。それにより日本の安全が強化されるだけでなく、戦時に原爆を経験した唯一の国として、この問題についての強い道徳的権威をもって語る事が可能になる」。

「私たちの美しい地球に核兵器はふさわしくありません。広島はこのことを伝えていきます。核兵器が私たちを滅ぼす前に私たちが核兵器をなくしましょう」

(1・22 「しんぶん赤旗」 『記事』と『潮流』より)

おくやみ

謹んでお悔やみ

申し上げます

秋田支部

明石 喜進さん 82歳

12月31日逝去

嶋田 宗雄さん 81歳

1月3日逝去

長谷部 健さん 100歳

1月12日逝去

俳句

弾圧された「蠍座」の俳句より

1937 (昭和12) 年頃、秋田県仙北郡の農村の分校で、若き教師と周辺の青年たちが集まって「蠍座」という俳誌を出していた。特に作風や思想の統一的指向はない自由な新興俳句であった。当局はそれが許せなかった。

1943 (昭和18) 年12月、治安維持法違反で二人の青年が検挙された。その一人加才信夫は結核が重症化し釈放されたが、厳しい勾留環境が原因で、回復せぬまま二年後に亡くなった。もう一人の高橋けん晟は、裁判もないまま拘禁され、終戦でやっと釈放となった。

これが俳句弾圧「蠍座」事件である。秋田県最後の治安維持法弾圧であり、一連の俳句弾圧の最後でもあった。

同人の俳句のいくつかの作品(あえて「厭戦的」と思われる句)を紹介したい。

■検挙された同人・高橋けん晟(本名)

秋風の補充兵となり母となり

物言わず

三等待合室の兵は着物を着て語らず

三等待合室に弁当もちて兵送る

■検挙された同人・加才信夫(本名・大河隆一)

すみれ野をものいはぬ兵となりゆく

魚に似た眼を持つ男菊づくり

均くる雲二つにわれて大陸に

■検挙は免れた指導的教師・畠山隆三(本名・のち赤坂姓)

秋灼ける目からんらんと兵の父

ベルト切れマスクもみんな

はづされる

編集後記

「毎日新聞」の日曜

版が面白い。この日曜版には、放送タレ

ントの松尾貴史さんのコラムが連載されている。このコラムをみるまでは気にも留めていない芸能人の一人だった▼毎回イラストも一流だが、コラムの中身がとにかく今の政権・政治に厳しい目を向けて発言している。これほどの中身を商業新聞である毎日新聞は平気なのかと心配になるほどだ▼しかし、裏を返すと、どんなに厳しい発言(投稿)でも、所詮これは「毎日新聞」本社の発言・真意ではなく、「一個人の考えである」と逃げることができるようにしている。これは朝日新聞の高橋純子さんの『多事奏論』コラムにも同じことが言える▼世論を大きく左右する新聞を含めたマスコミは、最後には政権寄りの報道をしている、またぞろ、戦前の御用新聞になりつつあるのでは。「新しい戦前」という言葉が生まれている。止めなければ……。(相川)